

# 1. はじめに

## <景観とは>

景観と良く似た言葉に、「風景」「景色」「風土」という言葉があります。「景観」も含めて、広辞苑では次のように説明されています。

風景：①景色、風光 ②風姿、風采、人の様子

景色：①山水などのおもむき、眺め、風景

風土：①土地の状態、即ち気候・地味など

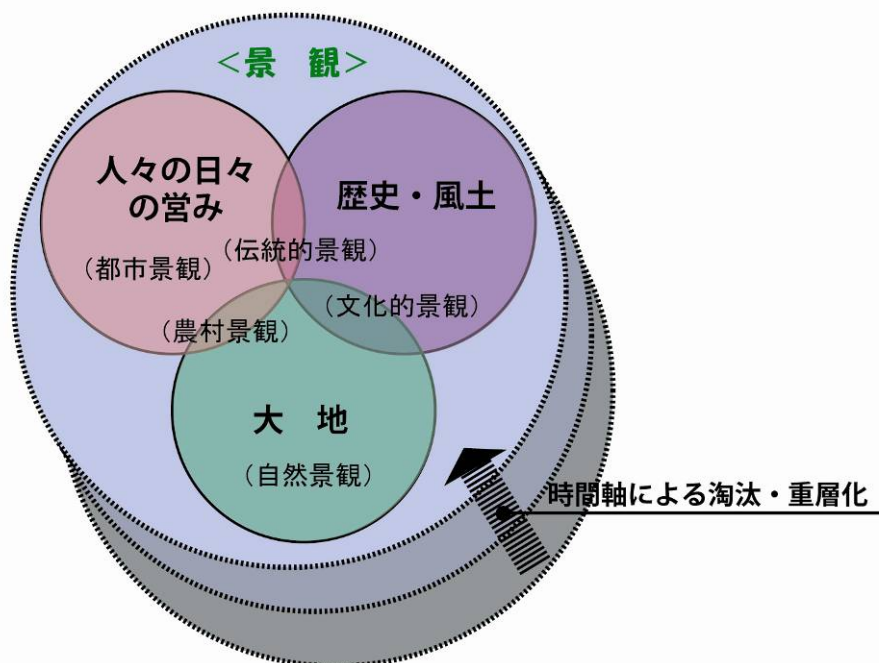
景観：①風景、外観、景色、眺め、またその美しさ ②自然と人間界の事とが入り交じっている現実のさま

伊予市景観計画における景観は次のように捉えています。

「景観は市を構成する緑・水などの自然や建築物などの視覚に映るものだけでなく、地域で永く営まれてきた人々の生活（暮らし）や活動が積み重なって、今、目の前にある姿として存在しているもの。」

従って、景観とは、“歴史・風土”“人々の暮らし・営み”“文化・伝統”などが時間的経緯のもとに積み重ねられて、一体となって目に見えてくるものの“総体”ということができます。

例えば、市のメインストリートの景観は日々の商業活動が醸し出す雰囲気と無縁ではなく、田園地帯の景観も永年培われてきた農作業と切り離してとらえることはできません。



## ＜景観計画の必要性＞

近年、経済社会の成熟化に伴う住民の価値観の変化等により、個性のある美しい町並みや景観の形成が求められています。一方、規格化による低廉な製品・素材・工法の流通、拡販や組織化された商業主義（マーチャンダイズシステムなど）により、全国どこでも同じような景観が見られ、その地域らしさ、個性が失われようとして久しく、既述のように、景観は、それぞれの地域の生活・文化の有り様に空間的、時間的に関わる概念であって、地域アイデンティティの基本となる住民が共有する地域の財産と認識されることが大切です。

今ある豊かな趣きのある地域の景観について、地域の人々がその価値、良さを共有することは、景観を通じて地域の問題把握、地域づくりの一つの契機につながると考えられます。住民参加や様々なルールのもと、景観をより良くすることによって、地域の環境を改善していく取り組み、景観を維持するためのシステムづくり、すなわち「景観づくり」と「まち（地域）づくり」を連動させた観点を重視し、景観づくりを通じた地域の価値の発見と共有化により地域活性化に役立てようとするものです。

例えば、河川や道路の清掃、緑化など身近な取り組みを通じて、心地良い、うるおいのある生活環境づくりが景観まちづくりにつながっていきます。

## ＜景観計画策定の効果＞

景観計画を策定することによって期待される効果として下記のようなものが挙げられます。

- ・各地域の快適な暮らしの実現
- ・まちづくりの課題解決や観光振興、交流人口の増加による地域経済の活性化
- ・住民と行政との協働体制の確立による地域力の向上

## ＜景観まちづくりの視点＞

景観計画は、都市、農山漁村、自然的な地域など広範な地域を対象とするとともに、現在優れた景観を有するところだけでなく、これから新たに良好な景観を形成すべきところも対象としています。また、住民や NPO 等からの計画提案が可能な住民参加の仕組みも設けられており、「景観まちづくり」を地域活性化手法の一つとして考えると、その視点は次のように捉えることができます。

まず、なにより地域で考えることが大切であり、そのことを通じて、次世代に向けて、「保全継承すべき大切な景観は何か」あるいは「失われた景観で大切だったものは何か」また「時代に即した新たなまちづくりにとって必要な景観は何か」といった視点が考えられます。

